# 第２回　岡山県地域産業成長プランに係る有識者会議　議事概要

**【開催要領】**

１ 日　時　令和８年６月２日（火）　１３：３０～１５：００

２ 場　所　県庁３階大会議室

３ 出席者　出席者名簿のとおり

**【有識者からの意見聴取項目】**

（１）地域産業成長プラン素案について

（２）その他

**【発言要旨】**

**（１）地域産業成長プラン素案について**

（有識者）

まず、前回、私から４点申し上げた、水島のＧＸ、高付加価値農業、人材と都市の再設計、スポーツ産業について補足させていただきたい。

１番目の水島のＧＸは様々な方からの共通した意見もあったので、提示された素案でも十分な取組が期待できると認識している。

２番目の高付加価値農業については、ＤＸ、ＡＩ、ロボットの導入を進めて、人に依存しない農業構造への転換による生産量の拡大の必要性である。既にフィジカルＡＩの導入も始まっているところもある。岡山のものづくり産業の起源というのは、農業の機械化から始まったと認識している。そのようなこともあり、様々な農業機械メーカーがある岡山は、農業用機械製造業では高いシェアを誇っていると認識している。高付加価値農業の生産拡大に着目して、成長を促すべきだ。

３番目の人材と都市の再設計については、大学の学生数が多いという特徴を生かすべきである。大学、学部、学科、研究と岡山の産業構造とマッチングをもう一度見直すことや、学生主体の文化活動や起業を支援して、若者人材の定着が重要ということは言うまでもない。

４番目のスポーツ産業については、この会議の所管ではないが、現在岡山県でもスタジアムの検討がされている。この動きと連動して、今後において期待したい。スポーツコンプレックスの考え方により、異なるスポーツの連携を促進するとともに、観光、健康、教育といった分野との融合を図るべきだ。

本来であればここまでの意見にとどめるべきだが、前回ほかの方の意見もあり、県でも既に意識していただいていると思うが、造船分野について強調したい。地域産業クラスター計画の１つとしてぜひ加えて欲しいものとして、瀬戸内海事産業クラスター形成による、玉野地区の再生プロジェクトである。

まず結論から申し上げる。

玉野地区は造船の町から脱却して海事エンジニアリングの中核拠点へと進化させるべきである。これまで玉野地区は造船業を中心とした産業集積により発展してきた。しかし、商船建造が非常に縮小しており、国際競争力の激化により従来のビジネスモデルは大きく変化している。

一方で海事産業そのものは、今回、国の戦略 17 分野に挙げられているとおり、重要性が非常に増している。経済安全保障、国際物流、そして脱炭素の実現を支える基盤産業として、国にとどまらず、世界と

つながる戦略分野として再評価されている。今は衰退の局面ではなく、産業の中身を引き上げる転換の局面であると認識すべきだ。しかしながら、玉野地区の現状には明確な課題がある。

第１に防衛・官公庁向けの建造への構造転換により、地域サプライチェーンの高度化が追いついていないということ。第２に電装・制御・ソフトウェアといった高付加価値分野の企業集積が不足していること。第３に地域産業が加工中心にとどまり、設計・開発の領域への関与が限定的であるということ。第４に若年技術者の流出により、人材供給基盤が弱体化していることである。

このままでは拠点はあるが付加価値は外へ出ていく。従って、今必要なことは部分的な支援ではなく、クラスターとしての再設計である。具体的には５つの柱で進めるべきだ。

第１に中核企業を核としたサプライチェーンの再構築である。

第２に電装・制御系デジタル分野の人材育成及び関わる企業の誘致である。今後の船舶は機械ではなくシステムであり、この分野の集積なくして競争力は成り立たない。

第３に脱炭素対応の拠点の形成である。ＬＮＧ・アンモニア・水素といった次世代燃料への対応、さらには既存船の改造、いわゆるレトロフィット、この拠点整備は確実に拡大する成長分野である。

第４に地場産業の構造の高度化である。３Ｄ ＣＡＤ、デジタルツイン、ＩｏＴを活用したスマート造船、いわゆる Shipyard 4.0、これを実装し、加工から設計・技術パートナーへの転換を支援する必要がある。

第５に人材戦略である。高専、大学、企業が連携し、海事・電装・デジタル人材を育成するとともに、玉野地区は非常に人口が減少しており、子供の人口が減っているため、今後小学校、中学校の統合廃校が行われるが、そうした施設を活用したサテライトキャンパスの設置や、地域内で人材が循環する仕組を構築すべきである。

玉野地区は製造基盤、中核企業、瀬戸内という立地、この３つを兼ね備えた全国でも数少ないポテンシャルを持つ地域である。だからこそ、本提案は単なる地域振興ではなく、国の海事産業の競争力を左右する国家的テーマである。造船を守ることではなく、産業構造を一段引き上げるという発想の転換が必要である。このプロジェクトにより、玉野地区は建造・修繕にとどまらず、設計・開発・システム統合まで担う海事エンジニアリング拠点に進化することで、瀬戸内全体の産業を牽引する存在となることを目指すべきである。

（有識者）

前回、繊維産業などの岡山の産業の特色は、もともと農業であるということを申し上げた。

東京などの大都市はどのような括りか把握していないが、おそらく同じようなものが全国から出てくると推察するので、岡山ならではのものという視点でもう１回網をかけてみるということが必要ではないか。そして、岡山の顔というものが、中国地方の中でも、また西日本でも、また日本国内でも、もう１つ見えてこない。要するに、岡山はどこか、岡山は何なのか、仮に岡山で観光だったら何ができるのかということについて、アピール力が弱いのではないかと感じている。

岡山のブランド化ということも、計画とは若干離れるのかもしれないが、これは岡山だという色彩というか色合いを出してみるべきである。

岡山ならではのものづくりだけではなく、ソフトウェアづくりも観点として入れてほしい。

それから地域の課題として、人口減少などがあるが、やはり後継者不足である。後継者がいないから、

事業、商売を畳んでしまうことは全国的にもあるが、人材育成につながるようなもの、このプランによってその地域で実際に事業をしている方が夢を持てる、明るい話題を提供できる、そういったプランにしてほしい。

（有識者）

ＧＸ、自動車関連、半導体関連ということだが、特に私が注目したのは雇用の創出である。この素案の中の半導体関連にも、クラスター形成による新規雇用創出、異業種からの半導体関連分野への新規参入が見込まれるといった記載がある。これからの地域の新たな産業の転換を図っていく１つのきっかけになるのではないかと。この分野の成長を期待する。

このような分野は全国的にバッティングすると思うので、そこでいかに岡山の特徴を出していくか。そういった分野では異業種からの参入ということで水島コンビナートとの連携も考えられるため、そういった特徴づくりに観点を置いた上で、半導体分野を推進してほしい。

（有識者）

ＧＸで岡山県の製造品出荷額の約５割を占める水島を挙げることは、第１回会議でも多くの意見が出ていたものであり、方向性として妥当ではないかと思う。水島は全国的な企業が多いので、岡山県として中核の企業をどうとらまえていくかというところが１つのポイントになるのではないか。

２番目の自動車関連について、岡山県には多くの事業所、会社があるのでよいと思うが、岡山県全体を考えると農業用機械やそれ以外にも多くのものづくりの会社がある。今後自動車がどういう発展を遂げていくかということもあるが、ものづくりをもう少し自動車に限定しないような括りということができないかと思う。岡山県では大学と産業界、行政が一緒に取り込んでいる様々な活動がある。各プランに大学も参画していただくのがよいのではないか。岡山経済同友会では、大学との連携をテーマの一つに掲げており、産学官連携を検討に加えていただきたい。

３番目の半導体関連について、当然半導体は世界的に需要が見込まれるということではあるが、はたして岡山で半導体が地域産業クラスターになるのかという印象がある。製造装置の会社等で重要な会社も多くあるが、他県と比べたときに岡山の半導体クラスターに優位性があるのか、岡山ならではの特徴は何かなど、もう少し整理が必要ではないか。

（有識者）

将来的な県産業の成長や新たな分野を目指していく上で、はっとするような分野が入ってくればとも一度は思ったが、既存の産業状況を的確に踏まえると、まずはこうしたプランから始めていくといったことが妥当なのではないかと思う。また、適宜加えていくなどは今後考えていけばと思う。

一方で、今回、地域産業の３分野については、経産局と同じような分野である。前回の会議で、「経産局と同じような分野になっても必要なものであれば、当然挙げていく必要がある」と話をした。同じ分野が挙がった場合については、国が支援する対象と県が支援する対象では内容が変わってくるし、大企業を中心とした国の支援と、それとうまく連携した県の中小企業向け支援など、そういったクラスターの色々な段階での支援が必要になってくることを考えながら、県のプランを作ってほしい。

例えば、水島であれば、今日の資料にもあるが、革新技術による製鉄プロセスなどの中核の大元は、国

の資源エネルギー系省庁などが中心になって経産局の計画をベースに動かしていくと思うので、県の計画では、そこの中で県は何を動かしていくのかということを考えて、コンビナート又はコンビナートに関連する周辺中小企業のＧＸ化をどう生かし、どう広げていくのかということを考え、支援していくことがいいのではないか。

自動車でも同じようなことがあると思うが、そういった点もどこまで今回の計画の中に細かく突っ込んで書くか、考えて進めてほしい。

（有識者）

今回お示しいただいている３分野は国の出している要件にも当てはまっており、県の特徴も踏まえて成長が期待できるということで、方向性としては妥当であると認識した。また、先ほど造船の話も出ていたが、他の分野もさらに検討するということなので、よろしくお願いしたい。

今回は地域産業クラスター計画で検討中の分野を中心に意見がほしいということだが、私どもが支援をしている事業者は地域の小さい事業者の方が多いので、どうしても地場産業成長プランも気になるところではある。検討中の分野は岡山県の特徴を踏まえ、県外にも、もっと言えば海外にも売り出していけるような分野だと思う。地域の小さな事業者の中にもこういう分野で一生懸命、商品開発や販路拡大に取り組んでいる企業がたくさんあると感じており、そのあたりをうまくつなげながら進めてほしい。

それぞれの分野が、それぞれでもＰＲできると思うが、連携すれば、全体としてさらに大きな付加価値を生むのではないかと思うので、そういうところも盛り込んでほしい。

（有識者）

前回、何名かの方がおっしゃっていたとおり、岡山県は水島地域とそれ以外、そしてそれ以外においては『特定の分野がなく、バランスが良い』という特徴がある。これだけ変化の激しい時代、簡単にゲームチェンジが起きてしまうわけだが、私は、この『バランスの良さ』こそが、これからの時代における岡山の最大の強みになり得ると考える。

今回、プランの素案で『ＧＸ・半導体・自動車』という重点分野を特定されるにしても、その分野を狭く定義しないよう要望する。これらの産業を支える裾野にある『デジタル』『ＡＩ』『材料』といった技術や人材は、あらゆる他分野に横断的に適用できるものである。この裾野の産業や技術も幅広く対象にしてほしい。裾野を支える人材育成において、大学としては、大学生への教育のみならず、社会人のリスキリング機会の提供や、現在構築中の『地域構想推進プラットフォーム』を通じ、県内の他大学のみならず高校・高専とも連携しながら、産学官金言が一体となって地域に必要な人材を育てる仕組みづくりを進めている。また、汎用的に社会実装につながる分野を重点的に研究し、地元企業と共に社会実装を推進している。実際、一つの技術分野である「デジタル」をキーワードに、岡山大学は『OI-Start』を運営しており、ここには県内の 180 を超える企業・団体が会員となって、共同研究や異業種コラボ、自治体の課題解決のプラットフォームとして機能している。こうした土壌があるからこそ、岡山は『ゲームチェンジに容易に対応できる県』になれるはずである。すなわち、重点分野への投資が、目に見える『生産設備やインフラへの投資』だけに偏ることなく、未来の産業のベースとなる『研究投資・教育投資』を含む、広い意味での投資として位置付けてほしい。

最後に、先ほど『バランスが良い』と申し上げた話と相反するかもしれないが、岡山には非常にユニー

クなフードテックやバイオの会社がある。
　産学官金言連携による『知への投資』と『ユニークな技術の芽』をしっかり包摂した計画にしてほしい。

（有識者）
　やはり岡山県として抱えている課題は、若い人の流出、人口減をいかに食い止めていくか、あるいは逆に増やしていくかというところにあると感じている。もちろん、大学志願者増という点もあるが、本計画を契機として、大学を卒業後に岡山県内で就職したい人がより増えていくことを望みたい。そのためには給与面なども重要だが、学生にとって岡山県でなければならない分野、岡山県でこそできる仕事があれば、魅力的に映るのではないだろうか。
　その点で本計画に求めたいこととして、若い人が岡山県内に残って働きたいと思えるような基盤づくりを盛り込んでほしい。また、様々な分野に波及が期待できるようなクラスター形成を進めてほしい。先ほどから多くの話があったが、特定の分野が成長することはもちろん大切だが、それが牽引力となって周りの分野も引き上げていくような流れができると、岡山県としての魅力がより大きくなると思われる。
　具体的に３つ挙げられていた分野の１つはＧＸであり、これは若い人にとっても大きなアピールになり得る。ただし、核となる企業がどのように位置付けられるかが明確に見えていないところが懸念点として挙げられる。
　次は自動車関連分野であり、本学からも多くの学生が就職していて、岡山県下では多くの企業が就職先として大学を支えていただいている。一方、ＥＶ関連は先進的であるが、昨今は世界情勢としてＥＶ離れが感じられるケースがあることに加え、他県に対する優位性をどのように示すかが重要である。
　最後は半導体関連分野であり、本学も最近の流れとして半導体の知識を持った人材教育に取り組んでいく計画を進めている。半導体は魅力ある分野で、大きな成長が見込まれるが、岡山県下はどちらかというと製造装置に関わる企業が多いようであり、いかに差別化を図っていくかが大切である。
　このような観点で考えると、必ずしも３つの分野を完全に切り離すのではなく、それぞれが長所を活かしたようなハイブリッドなプラン、例えば自動車関連分野のＥＶと半導体を結びつけるような方法を検討するのも良いのではないか。
　今回まとめていただいた３分野のいずれが挙がっても成長が見込めると思うが、なによりも５年後、10年後に、若い人が岡山県で働きたくなるような産業に育てていくところに重点をおいて考えてほしい。

（有識者）
　全体として、このクラスター計画と地場産業成長プランで幅広い分野をバランスよく盛り込んでおり、望ましいと感じた。
　１つ気になるのは半導体関連である。前回も申し上げたが、岡山県は他地域と比較して半導体産業の集積が進んでいるかというと、現時点ではビハインドしている地域だと思う。しかし、県としては全国的にみた成長産業として育成していきたいという決意の表れと理解をしている。
　一方、具体的にどうしていくかは容易ではないと考えている。半導体はプロセスや用途によって千差万別であるし、岡山で先端半導体に関与できている企業はごく僅かではないか。レガシーの半導体もニーズがあるので必要なことではあるが、総花的に半導体関連といっても難しいところがあると思う。どういう分野などにスコープを当てていくかは考えたほうがいいのではないか。１つ建設的なことを申し上

げると、県内大学が半導体の人材育成を掲げているということで、半導体の人材供給とセットで産業を集積させていくという打ち出しはあると思う。

（有識者）

地域産業クラスター計画の３分野については、第１回の発言内容に沿った内容になっており、今後検討していけば良いのではないかと思う。地場産業成長プランで少しご意見を申し上げたい。

今回のプランの作成にあたっては、「地方の伸び代である、可能性を秘めた魅力溢れる地域資源について、付加価値の創出と地産外商の推進を図って、地域経済の一層の拡大を目指す」というのが地場産業成長プランの趣旨となっていることから、そうした地場産業成長プランの実行で、一定規模の域内への波及効果があるものを選定すべき。岡山は複数の産業がバランスよく存在していることを考えると、分野を狭くとらえるのではなく、関連する業種の垣根を少し越えて、それぞれの特徴や強みを持ち寄りながら、新たな価値を共に作り出していくことが可能ではないか。

こうした観点から岡山は果物をはじめとして、農業分野に強みがあり、農業に関連する機械などの分野でも有力企業が多数存在している。農業機械の製造から実際の農業生産、そして流通・食品加工に至るまで、農業に関わる一連の産業全体をアグリビジネスとして選定するというのも１つの考えではないか。

同じような観点で、岡山には優れた医療機関も多くあること、最近はスポーツも盛り上がってきていることを考えると、単に病気ではない状態、つまりヘルスケアにとどまらず、スポーツによる体力向上、福祉による生活の質の改善、健康維持など、人間が生き生きと輝く状態（ウェルネス）を包括的に支える産業として、ウェルネス産業という括りで検討することも１つではないか。さらに、観光コンテンツとしてのスポーツを含めたウェルネス産業や、ウェルネスツーリズムなどという考え方でもよいのではないかと思う。

もう１点、地場産業成長プランで今回列挙されている産業の製造品出荷額等と事業所の数について、2023 年の数字にはなるが、日本酒、陶器、い草製品の出荷額はそれぞれ 20～40 億円程度、事業所の数はいずれも 20 数か所ということで、一定規模の域内への波及効果という面でいうと、かなり小さいのではないかと考える。日本酒などの特定の分野を磨くということもわかるが、今の規模からすると、かなり小さく、事業所数も少ないので、業種の垣根を少し広げて、日本酒や陶器、い草製品などは、観光コンテンツに含めて考えることで大きな広がりにつながってくるのではないか。

（有識者）

まず１つ目のＧＸについて、水島工業地帯におけるＧＸの推進を成長分野として位置づけることについては妥当である。水島地区には石油精製等々、自動車に至るまでＧＸ関連産業が集積しており、既に先進的な取組も進められている。また、総合特区やＧＸ戦略地域制度など、国の支援も活用できるチャンスを迎えている。一方で、今後は大企業の脱炭素の投資にとどめず、その効果を県内中小企業にどのように波及させるかが大変重要になる。ＧＸ関連設備の製造保守、計測・制御技術、リサイクル技術、デジタル技術など、多くの分野で県内企業の参入機会が生まれる可能性を秘めている。また、関連企業の誘致やデータセンターの整備についても、既存産業との連携、或いは新たなサプライチェーン形成を意識しながら進めることでより大きな地域経済効果が期待できるものと考える。今後は、エチレン生産設備の停止といった動きもある中で、ＧＸを環境政策としてではなく、岡山県の新たな産業政策として位置付ける

べきではないか。

次に自動車関連について、本県の完成車メーカーを中心にして、協力企業が長年にわたって技術を蓄積してきた。今日まで県内企業は社会や市場環境の変化に柔軟に対応しながら、三菱だけではなく、日産自動車、マツダ、ダイハツなど、系列を越えて取引を広げ、着実に成長を続けてきた。現在も岡自ネットワーク会議と岡山県が連携し、企業間交流や技術力の向上、新分野展開への支援を進めているが、総社市の協同組合であるウイングバレイが今年 70 周年を迎えるということはまさしく県内自動車産業の歴史、厚みを象徴するものと思う。一方で、自動車産業は電動化やデジタル化など、技術革新が急速に進む大きな転換期にある。サプライヤーとしての競争力を強化、維持していくためには、最新設備への投資や生産性向上、ものづくり人材の育成が欠かせない。県内の某部品メーカーの経営者からは、自動車メーカーの要請にこたえるため 30 億円を超える大規模な投資を検討しているという話も聞いている。自動車産業は地域産業の成長を支える重要分野として、引き続き県内企業を育成支援していく必要があると考えており、県の地域産業成長プランに選定することに財団としては賛同する。

最後に半導体について、ＡＩ、データセンター、自動車、医療機器、産業機械など幅広い分野を支える基盤技術で、今後も世界的な市場拡大が期待される成長分野である。

県内には精密加工、表面処理、金型、電子部品、製造装置関連など、高度なものづくり技術を有する企業が集積しており、こうした技術力は半導体産業においても大きな強みになる。岡山県が設立した半導体コンソーシアムには、半導体デバイス、半導体製造装置、半導体材料などに関わる企業、研究機関、大学が参画しており、県内企業の交流促進、最新技術・市場動向の情報共有、研究開発や人材育成に向けた連携支援などを進めていると認識している。

また、県内大学における半導体関連コースの設置、或いは半導体分野での先進的な研究を進める台湾の大学との連携など、人材育成や研究力強化に向けた動きも広がっており、加えて、九州地域等での半導体産業の集積拡大、或いは広島県をはじめとした瀬戸内海地域での関連企業の立地は、県内企業にとって新たなビジネス機会や広域連携の可能性を広げる追い風にもなっている。半導体分野については、産学官が連携しながら挑戦することで競争力が高まる産業の１つだと思う。引き続き県内企業の技術力向上、新規参入、事業拡大を後押しし、本県の新たな成長分野として育成していくことが重要だと考えており、県地域産業成長プランに選定することについては、財団としては賛同する。

なお、３つの分野を狭く限定するのではなく、できるだけ裾野を広げていくということは、お願いしたい。他のブロックとの重点分野の重複や他県の計画と相当の重複が予想されると思うので、岡山県の独自色を計画の中に入れてほしい。

（有識者）

今までのものをバージョンアップしていくことがメインに書かれている気がした。今までのバージョンアップ、これは本当に大切なことではあるが、この中に欠けていると思うことは、新しいものへの挑戦がほとんど書かれていない。

例えば、大学の関係者から言われたが、今はどの自治体も、高校、大学、専門学校も含めて、連携を強化しようと一生懸命模索しており、同じように学校も自治体との関係を深めていきたいと思っている。しかし、それをつないでくれるところがあまりない。直に当たっていかなければいけないという苦しみがある。例えば、我々も今新しい果物を作っていこうと調整しているが、どこに相談すればいいのか、

個々に大学に相談していかなければいけない。その中で県がもう少しその仲介役となって、いろんな情報を教えてほしい。

そして、新しい挑戦の中でドローンという言葉が１つも出なかった。小さなことの中では出てきたかもしれないが、これからの自動車産業はもちろん大切ではあるが、今、どんなニュースを見てもドローンという言葉が出てくる。これからの自動車と同じような産業に発展していくドローンに対して岡山県はどのように取り組んでいくのかということもあまり見えてこない。

これからの５年後 10 年後を見据えたら、ドローンが欠かせないという未来をしっかりと作っていくことは、私は非常に大切だと思う。

また人口は減っており、これは東京を除く全国どの自治体もほとんど同じである。人口が減っているのに今までと同じような職員数を雇うのかというと、これは負担になる。私は将来的には職員数を８割にして、その代わり 120 の仕事ができるようにもっていく。それは何かというとＡＩである。人口減少に対応していかなければいけない。担い手不足に対応していかなければいけない。そういった未来ビジョンがここには書かれてない気がする。

（有識者）

分野については、これから増えていくといったこともあったので、そういったことを考えていけばいいと思うが、やはり裾野を広げるということも少し意識して欲しい。町村の中では産業というと小さいものが多い中で、このプランやクラスター計画の先にあるものは何かというと、町村にとって、そこに対してどれだけの支援ができるのかということがその次に出てくる。そのためのクラスター計画であり、プランである。まず、ここで位置付けてそれに取り組まなければ、いわゆる地域未来交付金の採択や交付がないという理解をしているが、町村におけるプランについても、そのような理解になると認識している。町村において、スタッフが少ない中で、このプランを作っていくことは非常に難しい。労力もかかるし、時間もかかるのではないか。県の計画或いは成長プランの中に、町村のプランが間に合わない場合に町村の中にある産業を支援することを含めていくようなものを表現できないかということが、日々町村と話をする中で感じているところである。

観光や県産果物は、県北の町村においても取り組んでいるが、例えば県北の小さいところでは、要素産業でもある精密加工やステンレス加工のようなものに成長を見いだしたとしても、自分のプランの中に位置付けられなければ支援ができないといった状況にならないよう、広く県のプランや計画の中で読み込めるようにできないか。そのためにも、裾野を広げておくことが大切なのではないか。

それから、県のクラスター計画の中にあるＧＸ、自動車、特に半導体というようなことになれば、これから大きな産業団地造成が必要になることもあり得るのではないか。今の県とすれば、なかなか産業団地の造成は方針として難しいのかもしれない。町村の単位で産業用地を整備することは難しいと考えており、特に予算規模の小さい、専門人材がいない町村において、そういう産業用地を整備することは難しい状況なので、地域未来戦略を踏まえ措置された地域未来基金などをうまく活用することによって、今までだったら市町村が取り組む団地整備についても、県でもう一度考えていくことも、これを契機にできないか。大きな話のため、どうなるかわからないが、そのようなところも意見として言わせていただく。

**（２）その他**

（県）

今回、クラスター計画として３つの分野を掲げたことについては、概ね皆様のご了解をいただいたと思っている。

その中で、産業を支える技術や人材は、あらゆる分野に横断的に適用できるもので、各分野を支える人材育成や、大学連携などについても検討してほしいといったご意見をいただいた。今後、計画を策定する中で、それぞれの分野において、どういったことができるのかということについて検討していきたい。

また、岡山県の独自色を出してほしいということについても多くのご意見もいただいた。水島のような県の強みは生かしていくことと、例えば、観光については農産物、工芸（備前焼）、日本酒などのそれぞれ強みをかけ合わせて、岡山県の独自色を出していくことを検討したいと考えている。

国の計画との整合性というようなご意見もいただいた。国の戦略産業クラスター計画と地域産業クラスター計画、地場産業成長プランという３つの計画で地域未来戦略を推し進めていくとなっているが、３つの計画を推進することで、県全体を盛り上げていけるよう、情報共有というようなご意見もあったが、関係者と連携を取りながら、進めてまいりたい。

また、最後に市町村の計画を県計画・プランの中で読み込めるようにできないかといったご意見もいただいたが、計画策定にあたっては市町村とも連携しながら進めていきたいと思っている。

（有識者）

半導体について、３年ほど前から中国経済産業局や文部科学省の事業として、半導体人材教育を、あくまで国策として、半導体が重要だというコンテクストの中でやってきている。ただし、今の岡山県の半導体産業の状況であれば、教育するということは国力の強化にはつながると思うが、岡山県の人材流出ということで言えば、教育すればするほど流出してしまうといった危機的な状況だと認識している。

そのようなことが起きないように具体的に半導体に力を入れるのであれば、人材が流出しないような、きちんとした産業をつくることが岡山県を守ることだと思っているので、是非ともよろしくお願いしたい。

（県）

半導体について補足すると、岡山県の半導体集積が少し弱いという話もあったが、デバイスから洗浄装置などいろんな企業が県内を中心に揃っており、このクラスターを検討するにあたって、企業にも訪問して話を聞いているが、今、世界的に半導体市場が成長局面にあるので、かなり投資意欲が高い状況である。岡山県だけでは、そこを何とかしようということはできないが、北海道や九州など、どこの県も徐々に半導体に力を入れており、相乗効果で何とかしたいという思いがある。半導体については、単体でどうにかなるというよりも、九州、北海道、近くは広島と広域的に連携しながら、何とか成長していけたらという思いを持っている。

人材育成についても、近々、県内大学に半導体関連学部が創設されるということで、県としてはしっかりと応援し、インターンの仕掛けをするなど、工夫しながら、県内企業への就職につながるようにしたい。ただ、出ていってしまうものをそう簡単に止めることはできないが、両方にらみながら、育成も考えていきたい。

（有識者）

会社が来るには土地が要る。県は、県営（の産業団地）は作らないという方針を出している。そうすると、小さいところは造成などをすることは無理である。でも土地がなかったら、企業は来ない。

県は、補助金の要件を緩めてくれたが足りない。造成の費用がすごく上がっているから、もう少し考えていただいて、我々のところへ来て発展するということは県が発展するということにつながってくるので、そういう考えの下に、もう少し金銭的なものを何とかして欲しい。そうでないと、広い土地があるところに行ってしまう。

以上

第２回岡山県地域産業成長プランに係る有識者会議　出席者名簿

| 所　　属　・　役　　職 | | 氏　　名 |
|---|---|---|
| 岡山県経済団体連絡協議会　事務局長 | | 神　崎　浩　二 |
| (一社)岡山県商工会議所連合会　専務理事 | | 髙　橋　邦　彰 |
| 岡山県経営者協会　専務理事 | | 西　谷　治　朗 |
| (一社)岡山経済同友会　専務理事 | | 久　山　裕　士 |
| 岡山県中小企業団体中央会　専務理事 | | 脇　本　　靖 |
| 岡山県商工会連合会　専務理事 | | 小　寺　弘　城 |
| 国立大学法人岡山大学<br>研究・イノベーション共創機構　産学官連携本部長 | | 今　井　　明 |
| 学校法人加計学園岡山理科大学<br>研究・社会連携センター長 | | 清　水　一　郎 |
| (株)日本政策投資銀行岡山事務所　所長 | | 長　澤　健　一 |
| 岡山県銀行協会<br>((株)中国銀行　取締役常務執行役員) | | 西明寺　康　典 |
| (公財)岡山県産業振興財団　専務理事 | | 清　水　生　三 |
| 岡山県市長会　会長（浅口市長） | | 栗　山　康　彦 |
| 岡山県町村会　事務局長 | | 池　永　　亘 |
| 岡山県 | 産業労働部　部長 | 坂　本　洋　介 |
| | 産業労働部　次長 | 草　替　隆　樹 |
| | 産業労働部　産業企画課長 | 菱　川　　満 |
| | 産業労働部　産業企画課マーケティング推進室長 | 岡　崎　将　丈 |
| | 産業労働部　産業振興課長 | 横　田　健　二 |
| | 産業労働部　観光課長 | 濱　田　祐　一 |
| | 農林水産部　農政企画課長 | 塩　飽　成　史 |
| | 農林水産部　農産課園芸振興班総括参事 | 高　桑　利　明 |